阿波の名医　賀川玄悦

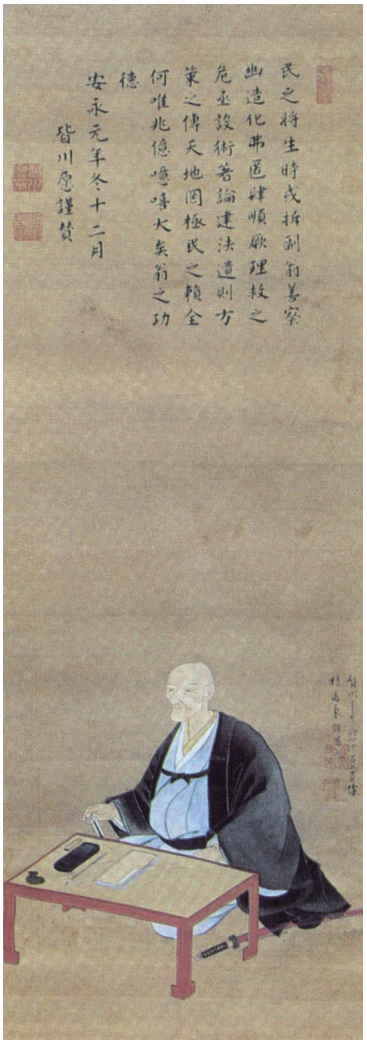

図１　賀川玄悦の肖像画

先日、国際医学会でロンドンを訪れた時、大英博物館を訪れた。ここは、世界最高の宝物館で、まもなく二五〇年となる。設立のきっかけは、サー・ハンス・スローンという内科医。彼は医業の傍ら、探検家として世界中を回り、遺跡や民族品などのコレクションは何と八万点にのぼった。古今東西の歴史的な文化遺産がここに集約されており、ロゼッタ石や、ローマのパルテノン神殿の貴重な大理石の数々なども、部屋一杯に並べられていた。

次に訪れたのが、科学博物館。四、五階には、世界の医学の歴史が展示されている。本物のミイラまで、目の当たりにできる。日本の展示はいったい何だろう、と足を進めた。驚くことに、阿波徳島の名医が、日本代表として紹介されていたのである。

賀川玄悦（元禄一三-安永六年、一七〇〇-一七七七）は京都で活躍し、阿波藩の藩医にも任ぜられた。明和二年（一七六五年）に、彼の莫大な臨床経験を集大成した名著「子玄子産論」（四巻）が刊行されたが、これは近代日本産科学の最初の書物であった。この書は「日本産科問答」の形式でオランダ語に翻訳され、有名な蘭学の医者シーボルトによって欧州医学界まで紹介されたのだ。

彼が残した医学的な業績の中で、最大なものは、正常胎位の発見である。すなわち、胎児は「上臀下首」であることを、世界にさきがけて発見し、論じた。

その箇所の口語訳は、「妊娠五ヵ月以後になると、胎児は瓜の大きさになり、

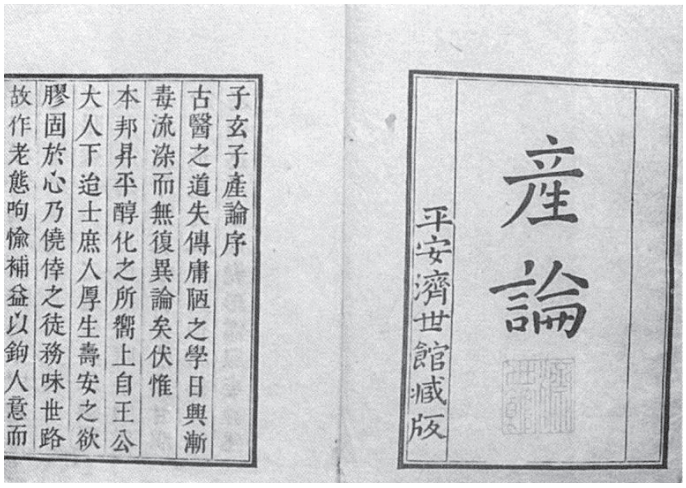

図2　子玄子産論の表紙

必ず背面倒首の姿勢をとる。」とある。杉田玄白は、「解体新書」巻四の中で、「今この説を作るは以て子玄子のこの道に功あるを称するなり」と述べている。

さらに、玄悦は回生法（法鉤法・切胎術）というわが国最初の産科手術を行い、数多くの産婦の生命を救った。彼の門弟は賀川流産科を継承し、江戸末期、わが国産科医の十中八・九は賀川流産科を学び、明治以降の西洋産科学受容の素地を作ったのである。

本邦の近世医学において、世界に誇ることのできる大きな仕事が三つあるとされてきた。それは、華岡青洲の全身麻酔（一八〇五）・賀川玄悦の正常胎位の発見（一七六五）、大矢尚斎の腎臓機能の実験（一八〇〇）であり、特に賀川玄悦は、わが国の近代産科学の創始者といっていい人で、特筆すべき点が多いと、賛辞を述べている。日本婦人科学会は、昭和一八年に玄悦墓碑を改築し、昭和五二年には、同学会と日本医史学会が顕彰碑を建立するなど、先生の遺徳を偲んだのである。玄悦の功績は、国際的にも評価されている。以前には、天皇陛下が、玄悦による人類愛と学問上の功績を称賛し、第九回国際産婦人科連合世界大会（一九七九年）でスピーチを行い、医学雑誌サイエンス（一九九〇年）雑誌上にもその論文が掲載された。

初代の玄悦に引き続いて、二代目玄悦は更に「産論翼」（二巻）を著し「子玄子産論」を補強した。三代目の玄悦は、はなはだ篤学の士で産科学に多くの工夫を加え、当時産科医として高名であった。彼は京都で御殿医として、光格天皇の親王を取り上げている。その後、代々阿波藩医を務めた。

八代目玄道は京都から徳島に移り、九代目玄庵は藩医学校を創設した。これらが現在の徳島大学医学部へと続く。また、一〇代目一郎は、徳島医学会の発会式典で学術講演を行い、賀川式箆（へら）型穿ろ器（せんろき）などを発明し、特許まで取得している。また、徳島産婆養成所ならびに看護婦養成所を開所し、現在の徳島県医師会と附属看護学校へと発展するのである。

その後、一一代目清子は産婦人科の女医で、趣味は日本音楽と茶の湯と生け花で、「本県刀圭界に咲く一輪の名花」と言われた。一二代目悦子は東京芸大の井口元成の門下生として研鑽した音楽家。一三代目潤は、南極越冬観測隊の医療担当に選ばれた経験があり、現在徳島で脳外科医院を開業している。

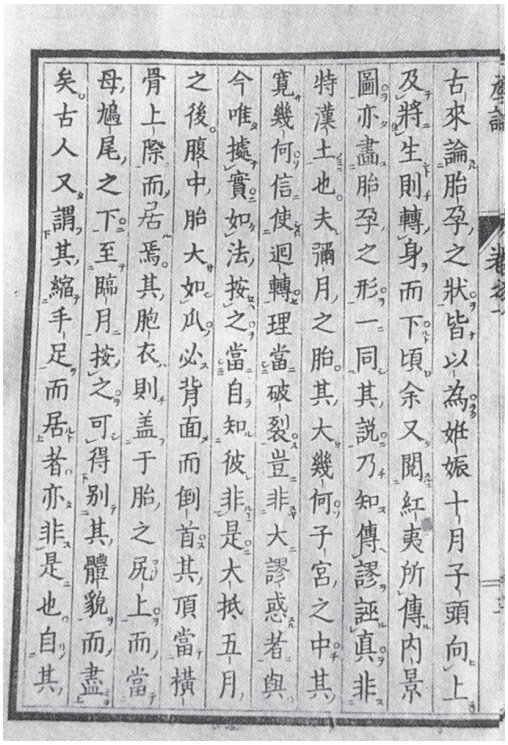
古來論胎孕之狀皆以為姙娠十月子頭向上
及將生則轉身而下頃余又閲紅夷所傳内景
圖亦畫胎孕之形一同其説乃知傳謬誣真非
特漢土也夫彌月之胎其大幾何子宮之中其
寛幾何信使迴轉理當破裂豈非大謬惑者與
今唯據實如法按之當自知彼非是大抵五月
之後腹中胎大如瓜必背面而倒首其頂當横
骨上際而居焉其胞衣則蓋于胎之尻上而當
母尾之下至臨月按之可得別其體貌而盡
矣古人又謂其縮手足而居者亦非是也自其

図３　子玄子産論の正常胎位を説く頁

Dr. KAGAWA Gen’etsu

Dr. KAGAWA Gen’etsu (1700-1777) worked active in Kyoto and was appointed as the Awa clan doctor. He published his supreme work “The Obstetrics research of actual labor” (4 volumes)”, which was a completion of his enormous clinical experience. This book was translated into Dutch and introduced to the European medical community.

His greatest medical achievement was the discovery of normal fetal presentation. He was the first in the world to discover and discuss that the fetus is ``upper buttocks and lower neck". As a matter of fact, “after 5th month of pregnancy, the fetus becomes fist size and always assumes a posture of tilting its head backwards."

Furthermore, KAGAWA performed the first obstetric surgery in Japan called the regenerative method using metal apparatus, which saved the lives of many pregnancy women. His disciples succeeded KAGAWA method Obstetrics in late Edo period. Consequently, KAGAWA Gen’etsu has been highly evaluated to be one of the supreme doctors in Obstetrics worldwide.